

講義名	財務管理論			授業形態	
担当教員	福田 司文	開講期・曜日・時間	前期 月曜日 1 時限		
		単位数	2	履修開始年次	3 年生
				ナンバリング・コード	ACC360

主題と概要

本授業は企業経営の問題を扱うが、扱いは経営の資金問題で資金がテーマとなっている。資金とはどのような点を問題とするのかと言えば、企業はどのように資金を調達し、その資金を運用するか(使うか)を考える分野である。調達はどのような手段があるか、適切な調達とは何かを問題にしなければならない。運用については運用手段や運用の合理的な基準が問題になる。企業の資金の動きの概要を理解し、その際、利用されるいくつかの基本的基準を学習する。現在の財務は高度に発達しているが、その基本的な仕組み、考え方を理解できるように授業を進める。

授業の内容は、問題にするテーマについての事例とその理論を組み合わせて説明をするように努力する。財務管理は会計学とは問題の取扱が異なるため、必ずしも会計の知識が必要と言うわけではないが、会計の知識があった方が理解容易であるのは事実である。

到達目標

- (1) 資金繰り等を学習することで企業の資金の動きが理解でき経営の仕組みを理解できる。財務的側面から経営の分析ができるようになる。
- (2) 資本コストの考え、投資決定の考えが理解でき、経営の現状分析、意思決定に貢献できるようになる。
- (3) 調達と(株式発行)とリスクの関係が理解でき、資金調達の原理が理解できるようになる。
- (4) 株式会社や株式会社の仕組みや企業グループでの株式の役割を学習することで企業経営の仕組みや株式が経営に占める重要度が理解でき、さらには企業の社会的役割、企業の直面する問題を理解できるようになる。

提出課題

授業内容を理解したか確認のために簡単なレポートを課す。教室での簡単な理解確認クイズは頻繁に行う。またレポート課題の提出を要求する。できるだけ頻繁に各回の用語理解等をResponを通じて回答してもらう。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

理解確認クイズ、レポート課題、Responの正解等については授業中に説明する。

評価の基準

理解確認クイズの提出、campus cross、Responの回答を使って日頃の理解力を確認、提出レポートを平常の理解度とみなし40%の割合とする。期末試験の結果は60%とする。

履修にあたっての注意・助言他

毎回の内容の理解の積み重ねが必要です。きちんと出席してください。出席状態は毎回確認します。内容については、財務はお金のことです。そのため基本的な思考は、数字でいるんなことを考えることにあります。きちんと積み重ねる学習をしないと分らなくなるので、出席だけでなくちゃんと聞いて理解してください。質問は大歓迎です。どんどんしてください。この授業では計算することが必要になります。計算方法の復習も兼ねますので、電卓等の計算機が必要です。

教科書

. 使用せず。 .

参考図書

その他

配布のプリントで進める。

- <参考文献>
 島田 入門コーポレートファイナンス、日本評論社
 増原 裕夫、新編 現代財務管理、有斐閣
 花枝、企業財務入門、白桃書房

授業計画

- 1回 企業の活動と財務の役割 会社の形態
 予習内容 予習は読まない
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。(240分)
- 2回 企業の活動と財務の役割 会社の構造
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 3回 財務諸表とその構造
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 4回 財務諸表とその構造 分析
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 5回 経営を計画する。 損益分岐点、ROE、ROA
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 6回 現金の重要性 簡単な資金繰り
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 7回 資金繰り表の作成
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 8回 現代企業の財務目的 複利計算
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 9回 現在価値
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。課題があれば取り組む。(150分)
- 10回 株式評価の基礎
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。計算課題が多くなるので時間をかけて復習に取り組む。(150分)
- 11回 株価モデル
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。計算課題が多くなるので時間をかけて復習に取り組む。(150分)
- 12回 資本コスト 個別資本コスト
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。計算課題が多くなるので時間をかけて復習に取り組む。(150分)
- 13回 資本コスト 総資本コスト
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。計算課題が多くなるので時間をかけて復習に取り組む。(150分)
- 14回 キャッシュフローと投資決定
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)
 復習内容 配布プリントで不確かな理解部分を確認すること。課題が理解できなかった場合は参考文献等を通じて理解を深めること。計算課題が多くなるので時間をかけて復習に取り組む。(150分)
- 15回 投資決定基準と全体のまとめ
 予習内容 前プリントで説明がなされていない部分については、目を通して内容を確認する。(90分)

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

経営学科共通のDPについて
 目標(1)、(4)を達成することで共通DPに貢献できる。株式会社の仕組みや企業内での資金の動きを理解しておくことは業界の動向や問題点を理解するために必要である。
 経営情報コースについて
 目標(4)を達成することでDP の経営の仕組みについて考え、理解できるようになる。目標(1)、(2)を達成することでDP の現状分析、改善に結びつけることができるような分析ができるようになる。
 グローバル経営コース
 目標(4)を達成することでDP の経営の仕組みについて考え、理解できるようになる。この科目ではグローバルな視点からの経営財務については授業回数に制限のためほとんど触れることができないため、DP について貢献するところはない。
 会計コース
 会計の初歩的な知識を活用することで、(1)、(2)の目標を達成することができる。(1)、(2)の目標を達成することでDP に示す財政状態、経営成績を分析する初歩的な力を得ることができる。目標(1)、(4)を達成することでDP に示される企業が直面する問題や企業の強みを発見して戦略構築に貢献できる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

Responを利用する場合は、受講者に選択の理由等を質問して、応答を繰り返す。紙ベースの課題提出の場合でも同様とする。

実務経験の有無及び活用

備考
